

関東都市学会ニュース 2024年11月号

(2024-3号)

発行 関東都市学会

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1

関東学院大学社会学部小山弘美研究室内

Tel: (省略)

<E-mail>

(省略)

<http://www.kanto-toshigakkai.com>

「関東都市学会」郵便振替：00130-9-33044、三菱UFJ銀行麹町中央支店普通口座0201604

2024年度の関東都市学会秋季大会を、12月14日(土)に茨城県水戸市にて開催いたします(完全対面)。会員の皆様には12月6日(金)までにご参加申込をいただき、ふるってご参集いただきたくお願いいたします。

非会員の方のご参加も受け付けております。参加申し込みの際は、参加者ご本人から、下記より参加申し込みをお願いいたします。もしくは、紹介者となる会員から事務局へ、非会員の方の氏名、ご所属、ご連絡先をメールにてお知らせください。

なお、理事会・各委員会は秋季大会時には開催せず、2025年1月13日(月・祝)にオンラインにて開催いたします。理事・委員の皆様には、別途メールで詳細をご連絡いたします。



↓秋季大会へのご参加申込はこちらからお願いいたします↓

または <https://forms.gle/djRfvvE35aiQpJ2SA> にアクセス
お申込ができない場合は、事務局へお名前、ご所属、ご連絡先を
メールにてお知らせください。

関東都市学会 2024年度秋季大会のご案内

大会テーマ

「都市の成熟とプロスポーツ文化：地方都市の変遷と移動する人々の生活」

開催日：2024年12月14日(土) 13:30-17:00

開催地：茨城県水戸市

主催：関東都市学会

協力：水戸市政策研究会

会場：水戸市民会館 3階 大会議室

(茨城県水戸市泉町1丁目7番1号、029-303-6226) ※詳細は3ページ参照

- | | |
|--------|------------------------|
| 13:00～ | 受付開始 |
| 13:30～ | 大会開始、会長挨拶 |
| 13:40～ | 水戸市役所／当学会会員 須藤文彦氏からの報告 |
| 14:00～ | 水戸ホーリーホリック 瀬田元吾氏からの報告 |
| 14:40～ | 休憩 20分 |
| 15:00～ | グループ・ディスカッション |
| 16:00～ | 水戸市内でのエクスカージョン |
| 17:00 | 解散、その後水戸駅周辺にて懇親会 |

大会テーマ

「都市の成熟とプロスポーツ文化：地方都市の変遷と移動する人々の生活」

伊藤 雅一（研究活動副委員長／茨城大学）

2024年度秋季大会は、水戸市（於：2023年開館の水戸市民会館）で開催される運びとなった。前回の水戸開催は2003年10月11日（於：1990年開館の水戸芸術館）であることから、約20年ぶりの来水となる。この間、水戸市の人口は約26万2000人から約26万8000人とおおむね横ばいであり、県都として県内の市町村別人口において最上位を維持し続けた。また、リーマンショック、東日本大震災、令和元年（2019年）台風19号による水害、新型コロナウイルス蔓延等、世界や日本全国を揺るがす難局を水戸市も経験してきた。本会もこうした社会変動とともに都市の各局面や変容過程を追ってきた。

今回の水戸大会は、水戸市を一事例とした地方都市のあり様を考える場としたい。具体的な水戸市の変容については、2003年大会でも運営にご尽力された須藤文彦氏（水戸市役所、本会会員）にご発表いただく。次に、本会としては新たな視点であるプロスポーツ文化について、渡独経験やプロスポーツのフロント経験をふまえて瀬田元吾氏（株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック）にご発表いただく。お二人のご発表を受けて、大会テーマについてグループワークを行うことを予定している。

ここで、少し本会の近年の大会動向をふまえつつ、グループワークに向けた補助線の描写を試みたい。水戸市について、弘道館や偕楽園といった歴史的資源の点在する地方都市として捉えた場合、2022年12月秋季大会「歴史的資源を通じたコンパクトシティや地域循環共生圏のその先へ」（於：小田原市）や、2023年5月春季大会「変わりゆく生活スタイルと居住・交流・関係の場—地方と都市の役割—」（於：高崎経済大学）での議論とつながっていると考えられる。須藤氏のご発表による、水戸市の約20年の変遷をふまえつつ、これまでの議論の追加や深化があればと考えている。

瀬田氏のご発表について、都市におけるプロスポーツ文化は、一見すると本会において新しい視点と考えられる。ただ、2021年5月春季大会「都市の更新—オリンピック開催を契機として—」（於：オンライン）では、都市とスポーツの祭典について議論しており、何らかの接続が見出されうる。また、プロスポーツチームの選手や運営者は、移籍の活発な働き方をしている一方で、在籍している間は都市の「魅力」を発信する主体として働いているというある種の矛盾を抱えている。このプロスポーツチームのあり方は、コロナ禍を経て加速する生活スタイルの変化（定住の価値変容）をふまえると、一部では一般化しつつあるとも考えられる。こうした視点は、2021年12月秋季大会「ウィズコロナ／ポストコロナと都市」（於：オンライン）や、2024年5月春季大会「『都市』で働き暮らすことの現在：『職住』関係再編下における『地域の居場所』構築に向けて」（於：東洋大学）での議論とつながっていると考えられる。水戸市におけるプロサッカーチームの一事例から、都市文化としてのプロスポーツを考える契機となればと考えている。

秋季大会 会場へのアクセス

■水戸市民会館 3階 大会議室

住所：茨城県水戸市泉町1丁目7番1号 Tel：(省略)

■アクセス（次のいずれかの方法でお越しください）

- ・JR水戸駅北口 徒歩20分
 - ・JR水戸駅北口（4～7番のりば）から路線バスで約5分、「泉町一丁目」で下車し徒歩1分
 - ・東京駅から高速バス「みと号」（赤塚ルート）で約100分、「泉町一丁目」で下車し徒歩1分
- ＊路線バスご利用の方へ＊

- ・運行本数の多い**茨城交通**のバス（主な車体は白地に赤青ライン）は、Suica・PASMO等の交通系ICカードに**未対応**ですのでご注意ください。（クレジットカード等のタッチ決済や、QRコード決済は一部対応。）

（参考：茨城交通ホームページ http://www.ibako.co.jp/regular/howto/rideon-qr_pay.html）

- ・運行本数のやや少ない関東鉄道のバス（主な車体は全体が水色）は、Suica・PASMO等の交通系ICカードを利用できます。

【会場周辺地図】

（水戸市民会館ホームページより：<https://www.mito-hall.jp/access/>）



お知らせ・募集

【2025年3月研究例会 報告者募集】

2025年3月2日（日）に開催される2024年度第2回研究例会（成城大学において15:00より）の報告を募集いたします。報告をご希望の方は、氏名、報告タイトル、内容の概要（300字前後）をメールにて、関東都市学会事務局までお寄せください。2025年1月10日（金）を〆切とします。申し込みが〆切を過ぎる場合には事務局までお問合せください。

【2025年度春季大会 自由報告募集】

2025年5月25日（日）または5月31日（土）に開催される2025年度関東都市学会春季大会（跡見学園女子大学において）の自由報告を募集します。報告を希望される方は、氏名、報告タイトル、内容の概要（300字前後）をメールにて、関東都市学会事務局までお寄せください。2025年2月28日（金）を〆切とします。

【2025年度 日本都市学会賞推薦候補図書募集】

日本都市学会では、毎年大会時に日本都市学会賞（奥井記念賞）を選定しておりますが、その選定にあたり各地方都市学会から候補作品（最大3点まで）を推薦することになっております。2025年度についても例年どおりの手続きで進められる予定です。関東都市学会として2025年度の日本都市学会賞候補作としてふさわしい推薦図書を選定するにあたり、会員から次の要領で推薦を公募し（自薦・他薦を問いません）、それを踏まえて選考作業を理事会内で行うことにいたします。

（1）候補作品の対象

2023年1月1日～2024年12月31日（奥付記載日）に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等

※ 日本都市学会賞（奥井記念賞）の推薦要件については、日本都市学会ホームページ <http://www.toshigaku.org/>を参照。

（2）推薦書類等提出物

推薦文（400字程度）及び該当図書2冊（審査後必要であれば返却）
（審議のうえ審査対象になる場合、7部（献本）が必要になります）。

（3）締切

2025年2月27日（木）必着

（4）提出先

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1

関東学院大学社会学部小山弘美研究室内 関東都市学会事務局 宛

日本都市学会賞には特別賞（外国語著作賞、学術共同研究賞、まちづくり賞）の部門もあります。2022年1月1日から2024年12月31日の3年間に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等が対象です。こちらについても情報をお持ちの方は事務局までお寄せください（書式自由）。

なお、特別賞（外国語著作賞）については、締切が2024年12月12日（木）必着です。外国語著作賞の推薦については、期日迄に候補著作の著者・タイトル・タイトル和訳・キーワード（5つ）の4点を事務局にお寄せください（書式自由）。同時に、該当図書1冊をお送りいただきます。その後、選考委員会で審議のうえ審査対象になる場合、推薦文（400字程度）を提出頂き、残り6部（献本）が必要になります。また、審議の結果、推薦の検討を次年度へ継続させていただく場合があります。

【『関東都市学会年報』バックナンバーを無償で配布します（会員限定）】

学術誌のオンラインデータベース「J-STAGE」へ、『関東都市学会年報』第19号～第23号に収録された論文・記事の電子版（pdfファイル）が新たに掲載され、どなたでもダウンロード可能となりました。それに伴い、『関東都市学会年報』の一部のバックナンバー（第19号～第23号）を、希望される会員に無償で配布させていただくことになりました。配布を希望される方は、下記のとおり必要事項をお書きのうえ事務局へメールにてお申込みください。

申込先：関東都市学会事務局

必要事項：希望する号数、送付先（宛名、住所、電話番号）

受付期間：2025年3月31日（月）まで

備考：着払いでお送りしますので、送料は申込者においてご負担ください。また、配布冊数の上限に達した号はお送りできません。その場合は、お申込みいただいた時点でお伝え致します。なお、お申込みいただける冊数は原則1冊です。どうしても複数部必要な場合はその旨と理由もお書きください。

2024年度第2回理事会（2024年9月21日）報告

2024年9月21日、2024年度第1回研究例会に先立って2024年度第2回理事会が対面とZOOMのハイブリッドにて開催されました。報告・承認された主な内容は次のとおりです。

1. 2024年度第1回研究例会について
 - ・ 進行方法について提案され、承認された。
2. 2024年度秋季大会について
 - ・ 当日のスケジュールおよび登壇者について提案され、承認された（開催場所と日時は第1回理事会で承認済み）。
3. 今後の大会・研究例会について
 - ・ 2025年3月の研究例会は、成城大学にて開催することが提案され、承認された。日程は今後理事内で調整の上、決定することが確認された。
 - ・ 2025年度春季大会は、跡見学園女子大学にて開催することが提案され、承認された。日程は今後理事内で調整の上、決定することが確認された。

※その後、10月22日～31日にメールにて日程調整を行い、p.3の通り決定した。
4. 研究活動委員会より
 - ・ 2025年度春季大会では、能登半島地震に関するテーマとして、「防災」「文化の継承とコミュニケーション」といった案が出ていること、後者は「文化財」「祭礼」といったより具体的なテーマを考えていること、震災時と平時との連続性を考えることも都市学会にふさわしいのではないかといった意見が出されていることが報告された。また、10月中旬までに、研活の担当グループで検討していく見通しが示された。
 - ・ 3月の研究例会では、自由報告の応募状況次第で、ラウンドテーブルの企画も検討することが報告された。
5. 編集委員会より
 - ・ 年報26号の編集状況について説明された。
 - ・ 年報26号より、紙媒体がなくなり、電子版だけとなることを受け、図書館への寄贈方法や規定等の見直しを今後検討していくことが報告された。
 - ・ J-stageへの年報バックナンバー掲載は、現在3～24号が掲載済であることが報告された。

6. 日本都市学会理事会より

- ・ 2025 年度から就任する日本都市学会会長の選挙があったこと、関東都市学会から推薦した論文審査委員が承認されたことが報告された。

7. 日本都市学会賞推薦図書について

- ・ 推薦におけるローカル・ルールについての検討がされ、p.4 の通り募集告知文にも反映された。また、日本都市学会からの依頼時期、オンライン出版の場合の対応などについて引き続き日本都市学会とも相談、検討していくことが確認された。

8. 2024 年 9 月 21 日開催の拡大理事会・委員会について

- ・ 取り上げるテーマについて確認された。

9. 事務局より

- ・ 次回理事会を 2025 年 1 月にオンラインにて開催すること、日程調整を今後行うことが確認された。
- ・ 学会 HP の「お知らせ」欄運用について、発信元が信頼のおける箇所からの掲載依頼であれば、会員からの情報でなくても事務局の判断で掲載することが提案され、承認された。

2024 年度拡大理事会・委員会（2024 年 9 月 21 日）報告

2024 年 9 月 21 日、2024 年度第 1 回研究例会に先立って 理事会・委員会に出席の理事・委員による、現在および今後の学会運営（事務局・各委員会）に係る諸事案についての意見交換を行った。

- ・ 小山事務局長が任期途中でサバティカルを取得するにあたり、2025 年 1 月から同年 5 月まで事務局長代理を米本理事が務める案が提示され、承認された。

（以下、公開版では省略）

関東都市学会研究例会（2024. 9. 21）の記録

2024 年度関東都市学会第 1 回研究例会 印象記

米本 清（高崎経済大学）

2024 年 9 月 21 日、関東学院大学金沢八景キャンパスにて秋の研究例会が開催された。

今回は、研究活動委員会ラウンドテーブル企画「都市をめぐる研究・教育・実践のいま」第 4 回として、岩手大学の荒木笙子先生から「被災後の居住地選択と空間変容—東日本大震災と能登半島地震後の活動・調査報告をもとに」のタイトルで話題提供をいただいた。

関東都市学会には久々のご出席とのことで、多彩な会員の方々からご研究のご紹介をいただくというラウンドテーブル企画の趣旨に沿った、興味深いご報告であった。東日本大震災が発生した直後に高校から大学に入学された世代とのことで、その後 13 年間という期間が、先生のように災害をご専門とする高度な研究者を生み出すほどの期間であったことをあらためて感じさせられた。

前半の東日本大震災、その復興に関するご研究は現地に入られ、花を植えるなどの活動をしながらか綿密に調査を行う手法であり、ご報告では石巻市雄勝町などの被災・復興に関する知見が詳細にわたり示された。住民・被災者の方々と共に過ごされ考えてこられたことから、スライドの

内容なども単なる公的な資料の羅列などではなく、現場の受け止め方や意向なども含めた、人々に寄り添った視点によるものであった。

後半の能登半島地震に関するご報告では概要説明に続き、復興まちづくり支援マップを利用した情報共有、住まいの再建に関する分類などが紹介された。これらに際しても、石巻市などのご研究・ご経験が生かされ、常に住民・被災者視点で語られている点が印象的であった。

司会の川副先生からは2つの事例の比較や研究者としての被災地との関わり方についての質問がなされ、学際研究上の提言を求められたが、瓦礫の撤去や漁業の課題、現地の状況に配慮した調査の実施方法、マップ作成上の協力など、現場での経験に基づいたご回答をされていた。またフロアからは被災者の方々が地域に住み続けるための条件、雄勝町でガーデンパークに関わっている方々のタイプ、これまでの災害からの教訓が生かされているか、雄勝町の中心機能、仮設住宅や継続して居住する既存住宅の立地、仮設住宅の定義、キーパーソンの役割などの質問がなされ、荒木先生は全てに具体例を挙げ丁寧にご回答されていた。

筆者は2000年前後の石巻市雄勝町をよく記憶しているし、東日本大震災の発生時に福島県いわき市に居住していた者としてコロナ禍の時期までは関連研究に力を入れていたものの、その後は現在の勤務地（群馬）周辺の研究が多くなっており、地道に災害研究を続けられている方、とくに若い研究者の方にお目にかかるとう反省させられる。先生には、今後さらなるご活躍を願う。